

# たまいたさい川柳



和田倉門噴水公園

2020年(令和2年)  
12月号 (No.733)

日川協加盟

## 巻頭言

### 「私」の助詞よこすべし

3密回避を金科玉条に、社会活動万般が未曾有の変貌を呈したこの一年。蝟集性向の生物が、巣籠もりを強いられた日常生活では、否応もなく身近な思考範囲に心が奪われがちであった。

私の場合、加齢や体調の乱れも相俟ってか、モノの考え方が気弱なマイナス思考になっていたような気がする。ややもすると、私は・私の・私が・の自己主張の世界から、「私も」・「私と」・「私より」・などと外界からの混雑した現象に心身を託したくなる方向へ、思考のベクトルが変わって行ったようであった。私から「私」に続く助詞世界の変化である。妙に理屈っぽい言い方ではあるが、主観から客観への変化・とでも表現するしかない。

心象を客観化すると、万象世界の視野が拡大するから、瞑想的な世界にも近づくような気がする。閉塞生活を実感された世の川柳子諸氏はどの様な一年を体験されたのだろうか。活動家は生活や仕事環境を益々IT化し、高齢者は来襲する津波のようなカタカナ語の海への恐怖感を益々深くしただろうか。これも理屈っぽい。

川柳活動では元来、主観の主張が匂う句は世界観が狭隘になりがちだから、読み手には心深い印象を与えることができないと思っていた(と勝手な自己撞着の頑固者だが)。その意味で、この一年間の経験は、天与の有難い機会であったと気付く私なのである。

今や、一転して世を挙げてのGOTO運動に目的を与えるなら、『「私」の助詞世界の探索』・と言う屁理屈が妥当かも知れない。

## 願法 みつる

### 日日是好

空晴れて挙げる目線に大宇宙  
テレワーク蟻集団を戸惑わせ  
元気な子泣く子笑う子四畳半  
地球儀を叩けば軽い空気音  
お守りのプラスチックに神が座す

コロナ新型さて大祓  
渡し場でまた受ける人別  
これも勤めと閻魔大王  
泣いて笑って天下騒乱  
音のあるなし時計くるくる